

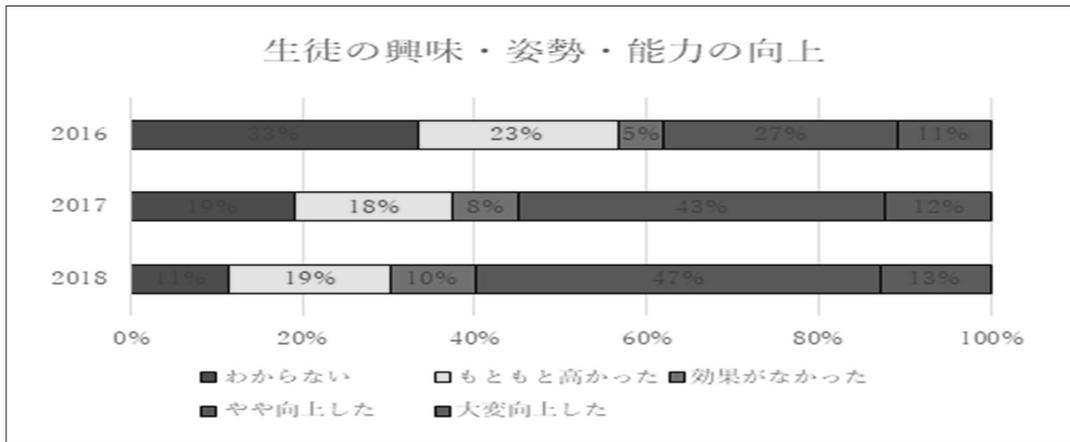
## SGH意識調査アンケート項目と集計結果

### 1 実施の効果とその評価

SGH研究開発を開始して2年目から教員アンケートを実施している。3年間で教員の意識がどのように変化したかを報告する。

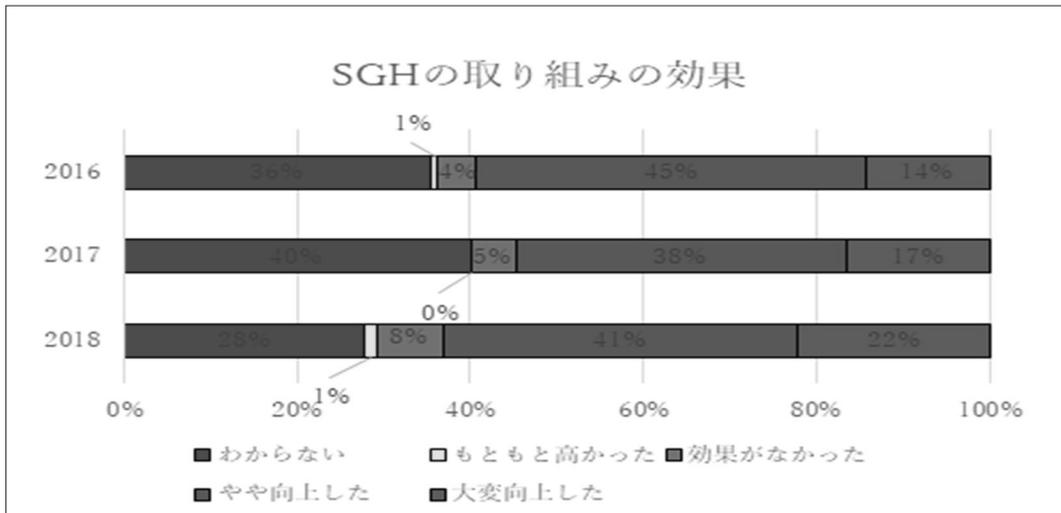
平成 30年度 SGH意識調査 <教員用>									
☆ 全員の先生にお尋ねします。マークシートの該当する選択肢にマークしてください。									
1) 先生自身についてお聞かせ下さい。									
問 1	現在指導している担当教科をお答えください。								
	①国語	②地理歴史・公民	③数学	④理科					
	⑤保健・体育	⑥芸術・技・家・情報	⑦英語						
問 2	教員としての経験年数をお答えください。担当教科・科目は限りません。								
	①1年未満	②1年以上3年未満	③3年以上5年未満	④5年以上10年未満					
	⑤10年以上15年未満	⑥15年以上20年未満	⑦20年以上30年未満	⑧30年以上					
問 3	SGHの取組へのかかわり度合いをお答えください。(複数回答可)								
	①SGH推進委員会のメンバー	②総合人間科(課題探究Ⅰ・Ⅱ)の担当							
	③総合人間科(課題探究Ⅰ・Ⅱ)の実施に関与	④協同的探究学習を実施							
	⑤SGHの企画で国内・国外へ生徒引率(モンゴル、ノースカロライナ、Global Discussion、など)								
	⑥その他、SGHの企画に補助的に関与(生徒へ助言・指導など)								
問 4	SGHの取組において、教科・科目を越えた教員の連携を重視しましたか。								
	①大変重視した	②やや重視した	③重視しなかった	④わからない					
2) SGH校に指定されたことで、以下に示す生徒の興味、姿勢、能力が向上したと感じますか。									
下の①～⑤からあてはまる番号を1つ選んで下さい。									
	①大変向上した	②やや向上した	③効果がなかった	④もともと高かった	⑤わからない				
問 5	未知の事柄への興味(好奇心)	①	②	③	④	⑤			
問 6	身の回りで起こっている社会的課題への興味	①	②	③	④	⑤			
問 7	世界で起こっている地球的課題への興味	①	②	③	④	⑤			
問 8	日本の文化や言語に対する興味	①	②	③	④	⑤			
問 9	海外の文化や言語に対する興味	①	②	③	④	⑤			
問 10	担当教科の学習に対する意欲	①	②	③	④	⑤			
問 11	自分から取組む姿勢(自主性、やる気、挑戦心)	①	②	③	④	⑤			
問 12	周囲と協力して取組む姿勢(協調性、リーダーシップ)	①	②	③	④	⑤			
問 13	粘り強く取り組む姿勢	①	②	③	④	⑤			
問 14	自分の考え方を見つけようとする姿勢	①	②	③	④	⑤			
問 15	問題を立てる力(問題構成力、気づく力)	①	②	③	④	⑤			
問 16	問題を解決する力	①	②	③	④	⑤			
問 17	問題を探って明らかにしたい気持ち(探究心)	①	②	③	④	⑤			
問 18	考える力(洞察力、発想力、論理力)	①	②	③	④	⑤			
問 19	成果を発表し伝える力(レポート作成、プレゼンテーション)	①	②	③	④	⑤			
問 20	海外に行こうという気持ち (留学、海外就職、海外旅行、海外派遣への応募等)	①	②	③	④	⑤			





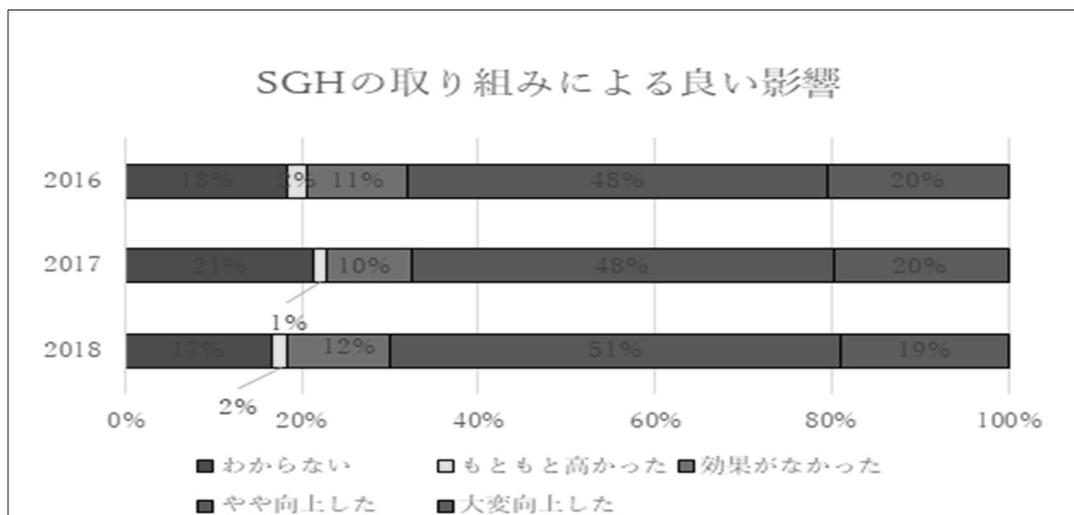
○ このグラフは、質問項目No5～No20を得点化したものである。グラフの変化からも分かるように、「生徒の興味・姿勢・能力の向上」に関して、教員は、年々向上していると感じていることがわかる。SGHが始まった当初は、SGHの効果が分からないと回答をした教員が3

割以上いたが、2018年では1割程度にまで減少した。その逆に、「やや向上した」「向上した」と回答している教員が半数以上になったことから教員自身が、生徒の成長を感じていることが分かる。



○ このグラフは、質問項目No21～No33を得点化したものである。この項目には「課題研究」や「グローバルディスカッション」「海外研修」「ALE」など、SGHの中心的な研究開発項目に関するものが多く含まれる。SGH研究開発の中心となる事項に関するものである。2016年から、多くの教員は、SGHの取組みに関して肯定的な意見を持っていることがわかる。初年次は教員自身の研究開発に対する意気込みや期待度も大きいため、教

員の意識が高いことも研究開発を行う上でよくあることである。しかしながら、研究開発が4年経過した時点においても「やや向上した」「向上した」と回答している教員が半数以上いる。ましてや、初年次よりもその傾向が高くなっていることから、SGH取組みの効果についての高い意識は、一過性のものではないことがわかる。すべての教員がSGH研究開発に携わっていることも、その理由の一つであると考えられる。



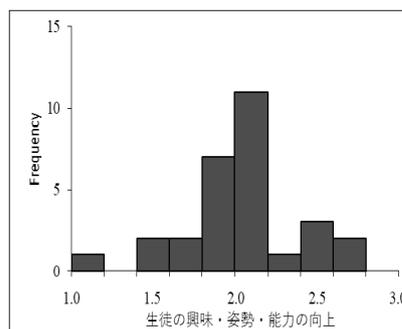
○ このグラフは、質問項目No35～No41を得点化したものである。この項目には「カリキュラム開発」や「教員の指導力向上」「教員間の連携」「地域連携」など、平成34年度から開始される新学習指導要領でもとめられる力について尋ねる項目である。「SGH取組みの効果」と同様に、2016年から、多くの教員は、SGHの取組みに関して肯定的な意見を持っていることがわかる。これは本校のSGH研究開発が、平成34年度から開始される新学習指導要領の方向性を精査して、SGH研究開発に取り組んだことが、教員の意識の向上につながっていると考えられる。

平成30年6月5日に発表された「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」においても「Society5.0において我々が経験する変化は、これまでの延長線上にない劇的な変化であろうが、その中で人間らしく豊かに生きていくために必要な力は、これまで誰も見たことのない特殊な能力では決してない。むしろ、どのような時代の変化を迎えるとしても、知識・技能、思考力・判断力・表現力をベースとして、言葉や文化、時間や場所を超えながらも自己の主体性を軸にした学びに向かう一人一人の能力や人間性が問われることになる。特に、共通して求められる力として、①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力好奇心・探求力が必要であると整理した。」とあるように、今後学校教育においては、従来行われてきた学校教育とは大きく変化した教育が行われなければならない。その意味においても、教員自身が、これまで自分が受けてきた学校での教育をそのまま当てはめて、生徒指導にあたることは全く通用しない。SGH研究開発を行うことで、教員自身が新しい「教育方法を開発する上で役立つ」「指導力の向上に役立つ」、「教員間の協力関係の構築や、新しい取組の実施など、学校運営の改善・強化に役立つ」をいう意識が向上しているとはSGH研究開発が生徒だけでなく、教員にもおおきな成果を及ぼしていることがわか

る。

参考までに、上記3項目のヒストグラムを記す。このヒストグラムは、効果がより分かりやすくなるために、上記の項目で、「わからない」「もともと高かった」という回答を削除して作成したものである。

※生徒の興味・姿勢・能力の向上の得点分布 (もともと高かった・わからない削除済み)



- 1：効果がなかった
- 2：やや向上した
- 3：大変向上した

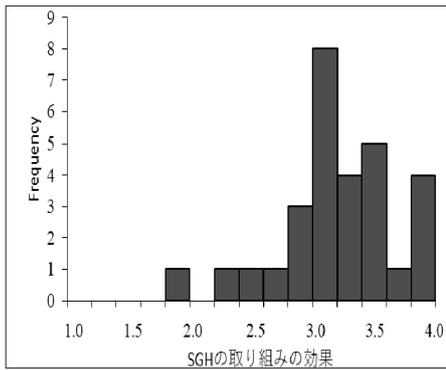
○ 1～3につけた先生方のデータ (N=29を1人1人合計したうえで、回答のあった項目数で割った得点である。

○得点範囲 1点～2.69点 ○平均値2.00点, 標準偏差 0.37点

○ $\alpha$ 係数(回答傾向の一貫性) 0.91

○分布が「2やや向上した」を中心に広がっていることから、SGH指定で生徒の興味・姿勢・能力が向上したと実感できている先生方が多いことがわかる。

※SGHの取り組みの効果(わからない削除済み)

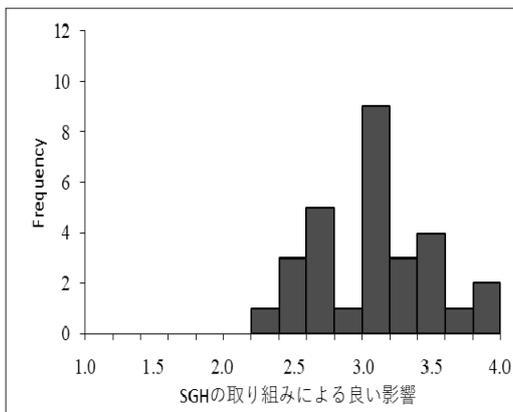


- 1 : まったく効果がなかった
- 2 : あまり効果がなかった
- 3 : やや効果があった
- 4 : 大変効果があった

○ 1～4につけた先生方のデータ (N=29) を1人1人合計したうえで、回答のあった項目数で割った得点である。

- 得点範囲 1.85点～4点 ○ 平均値3.20点, 標準偏差0.49点 ○  $a$  係数 0.96
- 分布が右に偏っていることから, 多くの先生方がSGHの取り組みの効果を実感しておられることがわかる。

※SGHの取り組みによる良い影響 (わからない削除済み)



- 1 : そう思わない
- 2 : どちらかと言えばそう思わない
- 3 : どちらかと言えばそう思う
- 4 : そう思う

○ 1～4につけた先生方のデータ (N=29) を1人1人合計したうえで、回答のあった項目数で割った得点である。

- 得点範囲 2.20点～4点 ○ 平均値3.05点, 標準偏差0.43点 ○  $a$  係数 0.78
- 得点分布は右に偏っていることから, 多くの先生方がSGHの取り組みによって良い影響がありそうだ, と期待していることがわかる。

## 2 SGH意識調査 [アンケート項目と (集計結果)]

### (1) SGHの評価の枠組みについて

SGHにおける評価は、生徒が様々なSGHプログラムや教科学習をうけることを通して、全体目標とする力を測る。そして、各プログラムや教科学習、生徒へ還元するというサイクルに位置づけられている。ここでの評価は各プログラムにおける授業評価とは異なり、様々なプログラムが全体として生徒にどのように効いたかを調べるというものである。その方法としてアンケートによる意識調査を関西大学社会学部心理学専攻の脇田貴文准教授と協同で質問項目、評価項目を作成した (5件法)。初期値を測るため4月に中学1年生と高校1年生に実施する。12月には全学年でアンケートを実施する。

### (2) アンケート項目一覧

#### A : 物事本質

- ・ 問題の原因を様々な角度から考えるようにしている。
- ・ 考えた解決法を自分なりの言葉で説明できる
- ・ なぜそのようになるのかをいつも考えるようにしている
- ・ ある事柄と別の事柄の共通点を探している
- ・ 自然や社会の現象がなぜ起きるのかを考えようとしている
- ・ 考えた解決法を自分なりの言葉で説明できる

#### B : 国際的視野

- ・ さまざまな国の人と仕事をしてみたい
- ・ さまざまな国の人と友達になりたい
- ・ 考えた解決法を自分なりの言葉で説明できる
- ・ 外国でその国の生活様式や価値観にしたがって生活してみたい
- ・ 世界のさまざまな文化を知りたい
- ・ 英語以外の外国語に興味がある
- ・ 海外で起きたことが自分にどう影響するかを考える事が多い
- ・ 海外のニュースを見聞きするようにしている
- ・ さまざまな国の人が身近にいるのは自然だと思う

#### C : 探究

- ・ 難しいことでもあきらめずに考えようとしている
- ・ 学習を進める中で、関係しそうな様々な情報を収集している
- ・ 考えた解決法を自分なりの言葉で説明できる
- ・ 何かうまくいかないとき、別な角度から考えるようにしている
- ・ 考えた解決法を自分なりの言葉で説明できる

#### D : 判断力

- ・ 何かを考える時に、経験や情報を活かして決めている
- ・ たくさんの情報の中から、自分にとって有効な情報を

探している

- ・判断をする時、たくさんの情報を集めようとしている
- ・自分が知った情報をうのみにせず、他の情報と合わせて考えるようにしている
- ・自分が導き出した答えが問題の主旨にあっているか考えている
- ・何かを判断する際に、メリットとデメリットの両方を考えている
- ・自分の判断が周りにどのような影響を与えるか考えながら決めるようにしている
- ・何かに取り組もうとするときにどこから始めればいいのかを考える。
- ・知りたいことを調べる方法自体を考えるようにしている

選択肢は、それぞれ「あてはまらない」が1、「どちらともいえない」が2、「ややあてはまる」が3、「ある程度あてはまる」が4、「とてもよくあてはまる」が5である。

### (3) 2017年意識調査結果

学年	力	度数	平均値	標準偏差
中学1年生 4月	A	77	3.93	0.73
	B	78	4.10	0.79
	C	78	3.94	0.69
	D	76	4.08	0.56

学年	力	度数	平均値	標準偏差
中学1年生 12月	A	77	3.72	0.79
	B	78	3.95	0.86
	C	79	3.75	0.79
	D	78	3.92	0.70
中学2年生 12月	A	77	3.49	0.85
	B	76	3.84	0.85
	C	78	3.59	0.8
中学3年生 12月	D	76	3.76	0.73
	A	79	3.53	0.83
	B	78	3.58	0.96
	C	78	3.64	0.86
D	77	3.69	0.76	

附属中学校出身

学年	力	度数	平均値	標準偏差
高校1年生 4月	A	77	3.32	0.89
	B	76	3.37	0.97
	C	77	3.40	0.87
	D	76	3.49	0.76

学年	力	度数	平均値	標準偏差
高校1年生 12月	A	77	3.33	0.83
	B	77	3.37	1.02
	C	78	3.44	0.80
	D	77	3.62	0.80
高校2年生 12月	A	77	3.15	0.97
	B	78	3.47	0.92
	C	78	3.25	0.88
高校3年生 12月	D	74	3.55	0.72
	A	76	3.03	1.00
	B	75	3.19	0.99
	C	77	3.17	0.87
D	76	3.25	0.84	

附属中学校以外の出身

学年	力	度数	平均値	標準偏差
高校1年生 4月	A	36	3.78	0.79
	B	36	3.47	0.92
	C	36	3.78	0.79
	D	36	3.79	0.71

学年	力	度数	平均値	標準偏差
高校1年生 12月	A	32	3.52	0.93
	B	34	3.18	1.00
	C	34	3.47	0.86
	D	34	3.72	0.77
高校2年生 12月	A	32	2.72	0.84
	B	32	3.14	1.09
	C	32	2.76	0.65
	D	32	3.24	0.75
高校3年生 12月	A	31	2.99	0.91
	B	31	3.39	1.00
	C	31	3.30	0.83
	D	30	3.26	0.71